

サイバーセキュリティ戦略本部  
普及啓発・人材育成専門調査会  
セキュリティマインドを持った企業経営ワーキンググループ  
第3回会合 議事概要

1 日時

平成 28 年 6 月 29 日（水） 13:00～14:40

2 場所

フレンドビルディング 7 階大会議室

3 出席者（敬称略）

（主査） 林 紘一郎 情報セキュリティ大学院大学 教授  
（委員） 引頭 麻実 株式会社大和総研 専務理事  
大杉 謙一 中央大学 法科大学院 教授  
岡村 久道 英知法律事務所 弁護士  
落合 正人 SOMPO リスケアマネジメント株式会社  
ERM 事業部 部長

橋本 伊知郎 野村ホールディングス株式会社 参事  
Co-CIO 兼 IT 統括部長  
野村証券株式会社 経営役

（事務局） 三角 育生 内閣審議官  
山内 智生 内閣参事官  
阿蘇 隆之 内閣参事官  
佐々木 良一 サイバーセキュリティ補佐官  
八剣 洋一郎 情報セキュリティ指導専門官

（オブザーバー） 警察庁  
金融庁  
経済産業省

#### 4 議事概要

(1) セキュリティマインドを持った企業経営ワーキンググループ取りまとめ（案）事務局より資料2，資料3に沿って説明。

その後、資料2について委員による自由討議が行われた。委員から以下のような意見が述べられた。

委員からの発言の概要は以下のとおり。

(引頭委員)

- ・名は体をあらわすように、資料のタイトル、例えば1ページの、はじめに、の副題において、大事なキーワードを入れるべき。
- ・サイバーセキュリティでは PDCA サイクルの継続が重要。これを表現するために、例えば3ページ、三つの留意事項には継続的な見直しを行うなどの表現を入れるべきだと思う。
- ・投資家やマーケットは、経営者に対して個別具体的なサイバーセキュリティ対策の開示を求めているわけではない。情報開示して攻撃されてしまつては逆効果。むしろ、普段の研修やチェック体制、インシデント発生時の対応体制などを内部統制の一環として構築できているかどうか重要で、そうしたことについて開示するよう求めるべきではないか。
- ・今回のとりまとめを推進する方策の一つとして、例えば投資家やアナリストを対象としたセミナーなどでの説明も有効。投資家やアナリストからのフィードバックも期待でき、社会全体として、PDCA サイクルを回せるようになるのではないか。

(大杉委員)

- ・タイトルにはキーワードを入れるなどして、前向きな表現にしてほしい。
- ・サイバーセキュリティでは経営者の視点を再発防止以外に向けることが重要。その意味で、3ページ最後の「新たな脅威への対処を先取りする真のリスクマネジメント」は良い表現。このように IT にかかわる攻めの経営の道具に、サイバーセキュリティが関連することが伝わる文章にするべきだと思う。
- ・今回のとりまとめを中小企業も含めて、ピンチをチャンスとするためのツールとなるようにしてほしい。

(岡村委員)

- ・2ページの基本的考え方で、ものづくりという表現が限定的でサービスなどが除外されている印象をうける。例えば、注釈で新しいサービスの開発も含むことを明確にしてはどうか。
- ・1ページのはじめに、もしくは、2ページの基本的考え方で、サイバーセキュ

リティ基本法と関連を述べてはどうか。国のとしても推進するというこれまでの政策との整合性を明確にする必要があるのではないか。

- ・表現にキャッチーさが必要ではないか。例えば、タイトルの、期待されていると云う表現は弱いので、もっと強い表現にしてはどうか。

(落合委員)

- ・ 1 ページ、はじめに、にある企業が果たすべき社会的責任、との表現は、経営層が果たすべき責任、としてはどうか。
- ・ 5 ページ、企業の視点別取組、で示している視点のうち、「①IT の利活用を事業戦略上に位置づけ、サイバーセキュリティを強く意識し、積極的に競争力強化に活用としている企業」は、大企業だけではなく、IT で革新に挑戦する全ての企業を指していることを明確にしてほしい。

(橋本委員)

- ・ タイトルはもっと強い表現にして欲しい。
- ・ 2 ページからの、二つの基本認識には、経営者は情報流出にばかり機を取られるのではなく、たとえば業務停止のリスクも意識するなど、防護の観点を多面的に認識すべき、との内容も入れてはどうか。
- ・ 9 ページ、今後の取組は、経営環境や事業環境の大きな変化が続く中で経営者は常に新たな認識をもってサイバーセキュリティに取り組む必要がある、旨でまとめてはどうか。

議論を踏まえた取りまとめ案の修文を主査に一任する旨で了承。

以 上